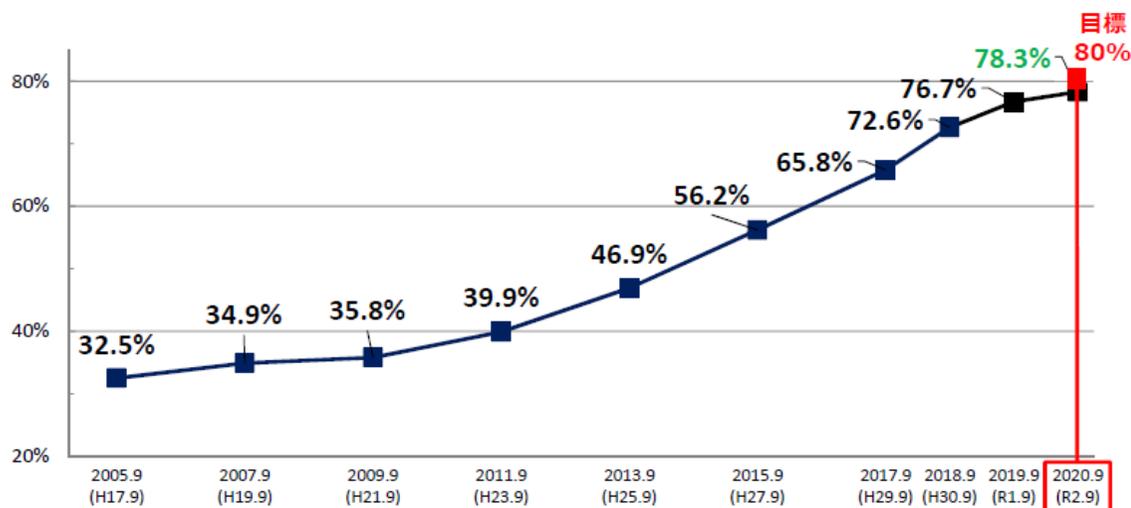


レセプト分析について

2021年8月 薬務課監視係

ジェネリック医薬品の使用割合目標について

- ジェネリック医薬品の使用割合については、令和3年4月27日経済・財政一体改革推進委員会社会保障ワーキング・グループにおいて、「2023年度末までに後発医薬品の数量シェアを、すべての都道府県で80%以上」という新たな目標が掲げられた。



80%目標に対し、実績78.3%※
⇒目標には届かず

※令和2年9月薬価調査

注) 「使用割合」とは、後発医薬品のある先発医薬品及び「後発医薬品」を分母とした「後発医薬品」の使用割合をいう。

厚生労働省調べ

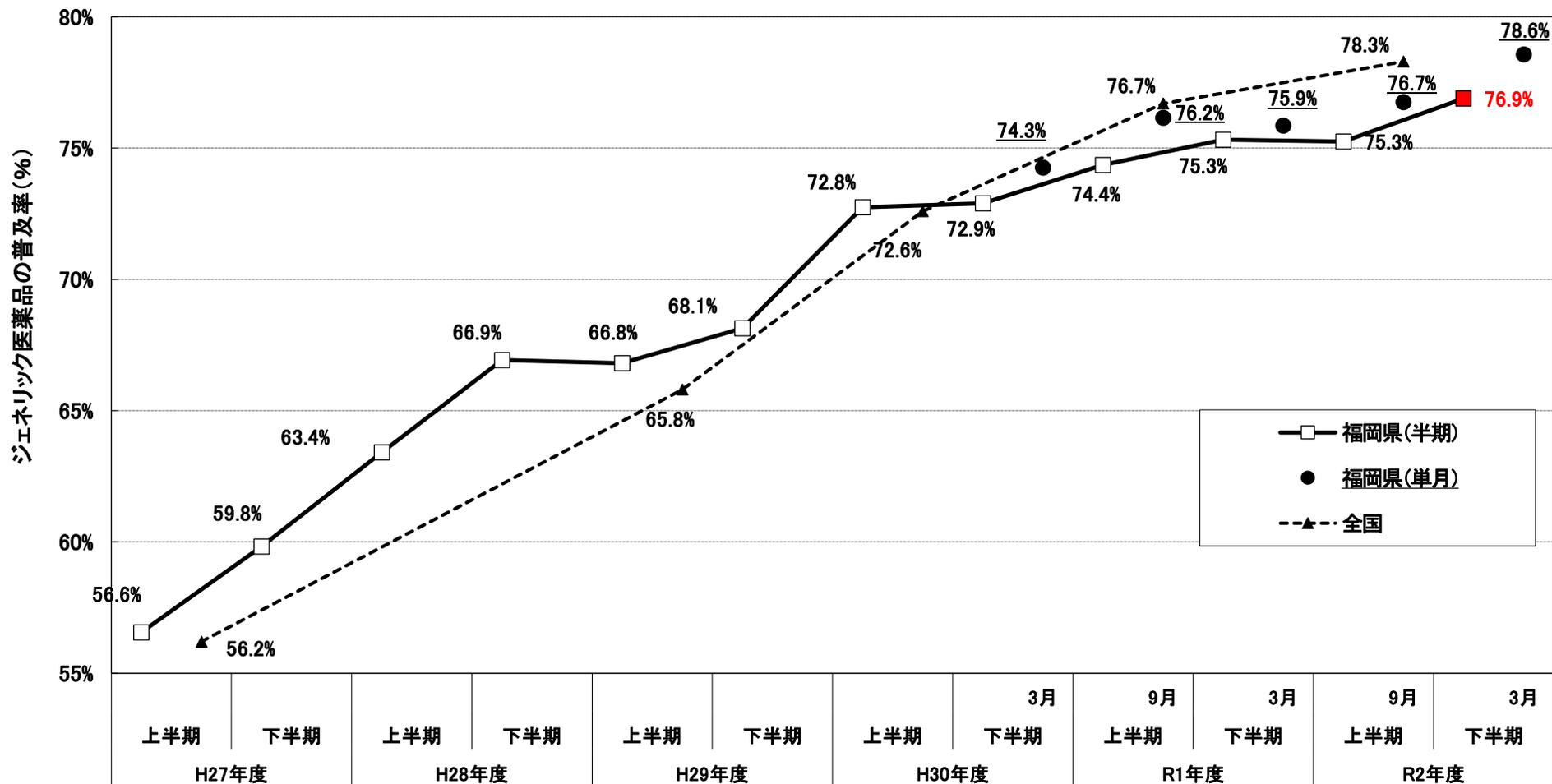
<新たな目標>

2023年度末までに後発医薬品の数量シェアを、全ての都道府県で80%※以上

※ 令和3年4月27日経済・財政一体改革推進委員会社会保障ワーキング・グループ資料より一部改変

福岡県におけるジェネリック医薬品の使用割合について

- 福岡県におけるジェネリック医薬品の使用割合は、令和2年度下半期において76.9%であり、政府の目標とする80%には到達していない。
- また、全国的な傾向ではあるものの、近年では数量シェアの伸びが鈍化してきている。



※ 福岡県内医薬品卸業者への調査結果より

福岡県におけるジェネリック医薬品使用促進の課題について

- これまでのレセプト分析により、精神疾患領域や眼科領域等、ジェネリック医薬品への切替えが進みにくい診療分野、薬効領域があることも判明しており、ジェネリック医薬品の数量ベースでの普及率は、頭打ちに近い状況であると推測される。
- 啓発の継続は必要であるものの、県内一律の事業によって効果的な使用割合上昇を望むのは困難となってきたものと思われる。（福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会 第四期期中間報告書より。）
- については、今後、ジェネリック医薬品の数量ベースでの使用割合を向上させるには、個別の対応が必要である。

福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会 第四期中間報告書

令和3年3月

福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会

4. 今後の課題と対策の検討

これまでの取り組みとその成果を踏まえ、平成19年の協議会発足当初からGEを取り替える状況が大きく変わってきている。これからは今までの枠組みにとらわれない事業をしていくことが求められる上、常に変わっていく状況を随時把握し、それに対してタイミングを逃さずに素早く判断し、行動を起こしていく必要がある。

したがって今後は、

- ① 固定概念にとらわれず現在の状況を幅広い視点で正しく観察し、
- ② 観察によって得られた事実から、どういった状況が起きているのかを把握し、
- ③ 目的に対してやること・やらないことを明確にし、限られたリソースを最も優先順位付けし、
- ④ 事業を実施していくことがより重要となっていく。

まずは、現状を素早く把握すべく、処方販売業者を対象とした流通実態調査を継続して実施していく。

また、後発医薬品への切り替えを効果的に働きかけるためには、どのような医薬品において後発品への切り替えが進んでいないか、あるいはどの薬剤の削減効果額が大きいかを明らかにし、自治体や医療提供者に情報を提供する必要があります。加えて地域、診療科、医療機関、薬効などの違いを比較し、どこに課題があり、どこを優先的にしていくのかを検討していく。

上記のように、虫の目、鳥の目、蛇の目を持って、今置かれている状況を把握観察し、判断していくことが重要であるが、現時点で課題として認識していることについても急に対応していくことも重要である。

① 地域へのアプローチ

県全体のGE使用割合が80%に近づいてきており(市町村国保で最も高い町では85.9%(平成31年3月診療分)、県内一律の事業によって効果的な使用割合上昇を望むのは困難となってきた。使用割合が低いところに注力することももちろん大事だが、人口が多く福岡県平均に大きく影響する地区の使用割合を上昇させることも重要である。したがって普及率の低い由良地区、人口規模の大きい北九州地区及び福岡地区で継続して協議会を運営することが考えられる。また、それぞれの地区で効果的と思われる取り組みは、他の同様の地区への横展開も検討する。

② 医療機関・薬効へのアプローチ

より効果的な取組を実施するため、医療機関及び薬効にGEの置換え状況や置換え困難理由等を調査することで課題抽出し、困難理由の解消を図る課題解決型の取組を実施する。まずは、人口規模の大きい北九州地区及び福岡地区の地域協議会単位で、具体的な取組について検討し、横展開していく。

また、県内市町村のアンケートを通じ、市町村ごとの数量シェアに差が生じているが、

県全体のGE使用割合が80%に近づいてきており（市町村国保で最も高い町では83.9%（平成31年3月診療分））、県内一律の事業によって効果的な使用割合上昇を望むのは困難となってきた。



使用割合が低い要因に対するピンポイントな促進策が必要である。

ジェネリック医薬品使用促進の課題について

- 今後、ピンポイントな促進策を講じるにあたり、今後発生しているGEの不祥事により、全国的な供給不安や回収が生じている現状がある。
- 現在、日本ジェネリック製薬協会において、ジェネリック医薬品に対する信頼の回復に向け、製造管理・品質管理の徹底、コンプライアンス・ガバナンス体制の徹底を図る取組みを実施しているところであり、今年度促進策を講じることは妥当ではないと思われる。

令和2年12月
小林化工におけるイトラコナゾール
への睡眠薬混入事件



令和3年3月
日医工における手順違反を受け
た回収及び業務停止命令



不祥事を受け、日本ジェネリック製薬協会において信頼の回復に向けた取組みを実施中

The screenshot shows a list of seven measures implemented by the JGA to restore trust in generic medicines:

1. 協会長からお詫びと決意 (Apology and determination from the association president)
2. 信頼性確保に向けた取り組み (Measures for ensuring reliability)
3. 協会としての取り組み (Measures as an association)
4. アンケート等 (Surveys, etc.)
5. 会員社への要請 (Request to member companies)
6. 厚労省関係通知 (Notification to the Ministry of Health, Labour and Welfare)
7. 各社HPで公開される情報 (Information published on each company's website)



福岡県における今年度のレセプト分析の方向性について

- ジェネリック医薬品の信頼回復に備え、今年度は、ピンポイントな促進を実施せず、今後ピンポイントな促進を実施するターゲットや課題を明確化するための検討・分析を実施することとしたい。

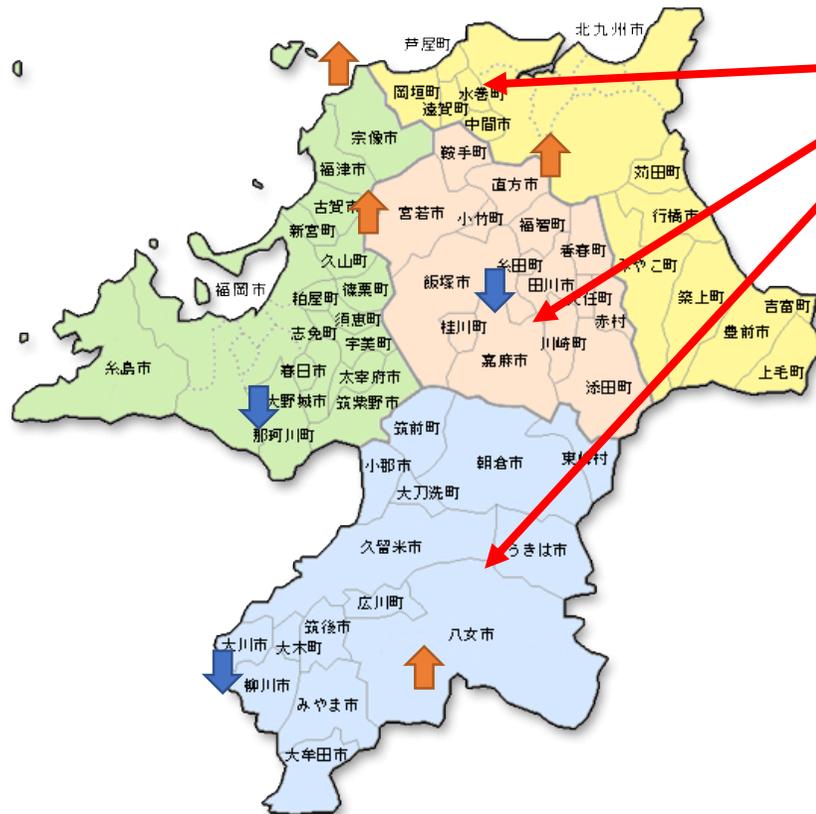
ジェネリック医薬品について、医療従事者・患者ともに品質や安全性に疑問が呈されている。

今年度は、ターゲットや課題を明確化するための検討・分析を実施することとしたい。



令和3年度ジェネリック医薬品使用促進事業におけるレセプト分析について

- ピンポイントな促進策を講じるにあたって、県からの個別の促進をあまり進めることのできていない、地域ごとのアプローチの実施を念頭において、レセプト分析することとしてはどうか。
- 令和3年度レセプト分析においては、アプローチを実施する対象や課題を明らかにするために、地域ごとのジェネリック医薬品使用割合と、医療機関種別、処方の院内／院外の別、診療科、病床数、一般名処方加算算定割合等との相関性について分析することとしたい。



今後ピンポイントな対応を実施するに先立ち、アプローチが必要な地域の特徴を分析してはどうか。

令和3年度のレセプト分析においては、以下の分析をしてはどうか。

- ・ジェネリック医薬品の使用割合が低い地域
- ・ジェネリック医薬品使用割合と院内／院外の別、診療科、病床数。一般名処方加算算定割合等にどのような相関性があるか